

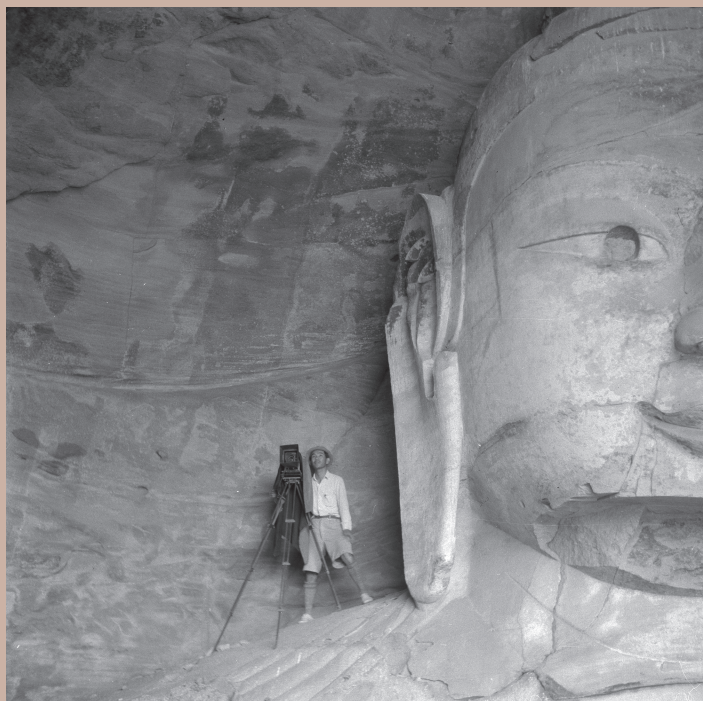


特集 映像と写真でみる東洋学

2009年10月28日(水曜日)～11月1日(日曜日)

9時30分～16時30分(入館は16時まで)

映像と写真から
よみがえる
中国歴史の真髄。



京都大学人文科学研究所の前身である東方文化学院京都研究所で、1929年の設立から1945年の終戦までの間におこなわれた、中国北部フィールド調査における記録フィルムのうち、現残する3本の16mmフィルム。本特集では、これらをデジタル化した貴重な映像を期間中上映するとともに、10月31日(土曜日)には、研究者によるフィルム解説をおこないます。

トークイベント：

戦前・戦中の中国史蹟フィルム—京大人文研所蔵フィルムを見る—

日時：2009年10月31日(土曜日) 14時00分～16時00分

場所：京都大学総合博物館 2F企画展示室上映スペース

司会：菊地 暁(京都大学人文科学研究所)

解説：安藤 房枝、向井 佑介、安岡 孝一(京都大学人文科学研究所)

特集映像プログラム：

日時：2009年10月28日(水曜日)～30日(金曜日)、11月1日(日曜日)

各日 13時00分～/15時00分～ 2回上映

『北支遊記』(1934年/長廣敏雄撮影/15分)

『北支史蹟調査旅行』(1936年/長廣敏雄、水野清一撮影/16分)

『雲岡石窟』(1938年/水野清一撮影/35分)

2009年8月5日～12月13日 秋季企画展「学術映像博2009」開催中！

毎週の特集上映プログラムのほか、映像展示、研究者によるトークイベントやワークショップによって、研究過程で生まれている豊富な映像と、映像に関わる研究者の実践を広く紹介し、学術と映像の関係について考えるための試みとして開催されています。<http://inet.museum.kyoto-u.ac.jp/expo/>

お問い合わせ：京都大学総合博物館

休館日：月曜日、火曜日(平日・祝日にかかわらず)

観覧料：一般400円/高校・大学生300円/小・中学生200円(京都大学構成員は身分証提示により入館できます)

T606-8501 京都市左京区吉田本町 TEL: 075-753-3272 FAX: 075-753-3277

E-mail: info@inet.museum.kyoto-u.ac.jp ホームページ: <http://www.inet.museum.kyoto-u.ac.jp/>



Academic Film Expo 2009

映像メディアは人文学にも多大かつ多様な影響を与えています。ここではユニークな学風を誇る京大東洋学のなかから映像利用に積極的な例として、考古学者・水野清一・長廣敏雄らによって戦時下の中国で実施された雲岡石窟の発掘調査、および、名著『文字の文化史』で有名な東洋史家・藤枝晃による敦煌文書研究を紹介します。

トークイベント：

戦前・戦中の中国史蹟フィルム —京大人文研所蔵フィルムを見る—

10月31日(土曜日) 14時00分～16時00分
京都大学総合博物館2F企画展示室上映スペース

司会：菊地 暁(京都大学人文科学研究所)

解説：安藤 房枝、向井 佑介、安岡 孝一
(京都大学人文科学研究所)

京都大学人文科学研究所の前身である東方文化学院京都研究所は、1929年の設立から1945年の終戦までの間、中国北部におけるフィールド調査をかなりの回数おこなってきました。それらのフィールド調査における記録フィルムのうち、現在残されているのは、1934年・1936年・1938年の3本だけです。今回のトークイベントでは、これら3本の16mmフィルムを一気に上映すると同時に、京大人文研の精鋭研究者によるフィルム解説をおこないます。

安岡 孝一：専門は人文情報学。
人文研所蔵資料のデジタルアーカイブ化に燃える。

向井 佑介：専門は中国考古学。
人文研所蔵考古資料を知り尽くす。

安藤 房枝：専門は東洋美術史。
北魏石仏をこよなく愛する。

特集映像プログラム：

2009年10月28日(水曜日)～30日(金曜日)、11月1日(日曜日)

13時00分～/15時00分～の2回上映

京都大学総合博物館2F企画展示室上映スペース

『北支遊記』

(1934年/長廣敏雄撮影/15分/白黒16mmサイレント)
1934年8月30日～9月17日撮影。撮影者の長廣は東方文化学院京都研究所研究員。撮影場所は、北京(当時は北平)市内の北海公園・正陽門・故宮・観象台、北京郊外の頤和園 仏香閣・香山・明十三陵・房山雲居寺、および山西省大同の雲岡寺など。

『北支史蹟調査旅行』

(1936年/長廣敏雄、水野清一撮影/残存16分/白黒16mmサイレント)
1936年3月～5月撮影。撮影者は東方文化学院京都研究所研究員の長廣と水野。元々は16mmフィルム3巻の45分作品だったと考えられるが、現存するのは中巻16分のみ。現存部分の撮影場所は河北省の南響堂山・磁県彭城鎮・北響堂山、および河南省洛陽の龍門石窟。ただし現存分は、龍門石窟の途中まで。

『雲岡石窟』

(1938年/水野清一撮影/35分/16mm白黒サイレント)
1938年4月9日～6月15日撮影。撮影者の水野は東方文化研究所(1938に改組)研究員。撮影場所は、北京～張家口～天鎮～大同の鉄道風景、山西省大同の下華巖寺・上華巖寺・市街地・城壁南門・南化善寺、大同郊外の観音堂・雲岡寺など。そして、雲岡石窟およびその周辺の映像が作品のほぼ半分を占める。

